

2019 年度 A E D 訓練器等助成事業 活動実績報告書

(2020 年度分)

団体名	救急・災害医療&防災教育研究会
<p>【目的・動機】 2020 年度はコロナ禍での日本の医療逼迫が大きな課題となった。少子高齢化社会の進展により、薬剤師の職能に対して社会のニーズが大きく変化している。路上を通行中の体調不良、患者の薬局来局時や薬剤師が患者宅を在宅訪問した際の急変など、薬剤師や医療事務が救急対応をする機会が増加している。そこで、薬剤師、薬学部 3 年生が、コロナ感染防御および救急医療の正しい知識・技能・態度を習得することにより、救急・災害時に自らの安全を確保し、適切に行動できることを目的とした。</p> <p>【活動の実施方法や内容】 大阪府内に勤務する薬剤師を対象に、職場で急変患者が発生した場合の一次救命処置、119 番通報、アナフィラキシーショック対応、コロナ禍の感染防御について、座学および実技指導をオンラインで実施した。また、私立大学薬学部 3 年生 95 人を対象として、救急事例および災害事例を概説し、一次救命処置、119 番通報、アナフィラキシーショック対応、コロナ禍の感染防御について座学および実技指導をオンラインで実施した。3 密を避けるためにオンライン開催とし、受講者の実技では 2L のペットボトルを用いて胸骨圧迫の訓練を実施した。</p> <p>【活動で得られた成果】 オンライン開催で実技の訓練が可能なのか心配であったが、zoom の画面越しに、お互い声を掛け合いながら連携し、ペットボトルを使用して胸骨圧迫を実施する姿は、対面開催でなければ、救急・災害の研修は実施できないとのアンコンシャスバイアス（根拠のない思い込み）を払拭することができた。zoom による開催のため、自室が映し出されることから、受講者以外のオブザーブの禁止、開催時の録音録画、静止画の撮影を禁止として実施した。「二次救命処置の映像を観たことで、一次救命処置を周りの人がする意義を理解しました。」という感想が寄せられた。</p>	